

鳥羽市賞

現代日本社会学部現代日本社会学科 2年
村上 葵

地域課題に対する課題の背景とその本質	<p>鳥羽マルシェはコンセプトの1つとして「生産者の笑顔や収穫の喜びを、食べる幸せにつなげていく場所」であると第12回の講義でおっしゃっていました。その通りに鳥羽マルシェは生産者がその日の朝に入荷してくれた新鮮な青果や鮮魚を消費者へとつなぐ役割を果たしています。しかし生産者と消費者をつなげて親近感を持ってもらうための方法はまだ他にも色々あるのではないかと感じました。</p> <p>そこで私は、今以上に生産者と消費者のつながりを強くし、親近感を持って買い物していただく手助けとして何をいくべきなのかを考えました。</p>
あなたの考える解決策	<p>私は、生産者のほうが料理のときにその青果や鮮魚などの魅力を引き出す方法や、消費者側が知らなかった豆知識などを知っているとは思いますが、それを伝えるような場が鳥羽マルシェには少ないのではないかと考えました。なのでそのような場を増やしていくべきだと思いました。</p> <p>そこで考えた案が2つあります。まず一つ目は、その売り場に売っている青果や鮮魚、加工食品などを使ったレシピを設置することです。それもただのレシピではなく、生産者の方に教えていただいたレシピを設置します。また、ポップみたいにして設置するのではなく、レシピカードにして商品の横に束で置いておくと気軽に持って帰って真似できるのではないかと考えました。こうすることで「この食材を作った人はこうやって調理して食べてるんだ」という発見から親近感がわいたり、「買ってはどうやって調理・保存するのか分からない」という消費者側の不安要素を取り除くことが出来ると思います。2つ目は、今後コロナが収まったら、農業体験会や生産者の方にその食材を使った料理の作り方を実演で教えてもらうような企画を行うという案です。イメージは青空レストランという番組です。このような企画を行うことで消費者の方々に、商品とその生産者をより身近に感じてもらうことが可能になるのではないかと考えました。また、生産者が消費者からの声を直に聞く機会も生まれるのではないかと考えます。</p>
参考書籍等	20201223 第12回鳥羽市農水商工課 L.pdf

課題解決にグループワークで取り組むことに関する意義、利点などについてあなたの考え

問題を解決するためにグループのみんなと一緒に考えたり行動したりすることの良いところは、二つあると思います。一つ目は、それぞれが思い付いたアイデア同士をくっつけたりすることで新しいアイデアが生まれることがあるということです。二つ目は、それぞれ得意なことと苦手なことがあるけど、みんなやれば補いあうことができるということです。